

治療コンセプトが変わる！ 新素材の可能性一。

GUMMETALワイヤーによる 歯の一括移動 —その概念と臨床—

長谷川 信



- 規 格：A4 変型判 / フルカラー / 244P
- 定 価：13,000 円+税
- 発 行：東京臨床出版
- 発 売：(株) ロッキーマウンテンモリタ

GUMMETALワイヤーで 理想の咬合構築を一。

歯を思い通りに動かす手法を確立し、同時にそれをオプティマムフォース（歯の移動にとって最も都合のよい力加減）で遂行できれば、一カ月に1mmずつすべての歯を移動することで、治療期間を半年程度に短縮することも決して夢ではない。

その実現のために新しいチタン合金「GUMMETAL」を使った矯正用ワイヤーが開発された。本書では、そのすぐれた金属学的特性を歯の移動に活用するための考え方や手法を呈示している。

このGUMMETALワイヤーを使うことにより、昨今増悪しているディスクレパンシーの解消をはじめ、大臼歯の遠心移動、圧下、歯体移動など、従来難しいとされてきた歯の移動は容易になる。

現代矯正を代表する手法として、歯の「三次元コントロール」を売物とするマルチブラケット法があり、それぞれに、複雑な屈曲、抜歯の制約、衛生管理などの問題を内包している。小さなバネ定数とシンプルな構造を可能とするGUMMETALワイヤーの活用により歯の「真の三次元コントロール」を会得し、理想の咬合構築に邁進していただきたい。

—「序文」より引用・要約—

著者略歴：1979年 / 神奈川歯科大学卒業、1980年 / 神奈川歯科大学歯学部歯学研究科入学、1982年 / ブリティッシュコロンビア大学歯学部オーラルバイオロジー客員研究員、1984年 / 神奈川歯科大学大学院卒業（歯学博士）、神奈川歯科大学成長発達歯科学矯正講座歯科矯正学分野

●お申し込みは、出入りの歯科商店または最寄りの(株)ロッキーマウンテンモリタまたは(株)モリタまで一。

高度な歯の「三次元コントロール」を実現するGUMMETAL 矯正ワイヤー

序文 長谷川 信 (神奈川歯科大学成長発達歯科学講座歯科矯正学分野)
 発刊に寄せて 鈴木祥井 (神奈川歯科大学名誉教授)

PART.1 概論編

- 1 GUMMETAL の特性と応用
 - はじめに
 - 矯正力の変遷
 - ワイヤー材料について
 - GUMMETAL とは何か?
 - これからの矯正治療
- 2 咬合の過去と未来 (1) ディスクレパンシー
 - ディスクレパンシーは増悪している
 - 咬み合わせの変遷
 - 将来の咬合
 - ディスクレパンシーの解消とはスペース作り
- 3 咬合の過去と未来 (2) ディスクレパンシーの解消とは何か
 - 小臼歯抜去における抜歯分析
 - 余剰スペース閉鎖のための臼歯部近心移動
 - 第一小臼歯の抜去
- 4 いかにスペースを獲得するか: アベイラブルスペースを作る
 - 非抜歯治療は不可能? - 第三大臼歯抜去
 - 1) 歯列のアップライティング
 - 2) 大臼歯の遠心回転
 - 3) 歯列の側方拡大
 - ① Quad Helix
 - ② Mulliganのオーバーレイアーチ
 - 抜歯部位の選択
- 5 GUMMETALワイヤーを使った "en bloc" movement の術式
 - "en bloc" movementにおけるパーティカルコントロール
 - GUMMETAL ワイヤーの使用法
 - 下顎前歯部圧下に伴う唇側傾斜への対処
 - "en bloc" movement の要点
 - ゴムが大事

- 症例 1~2 Class I 開咬
- 症例 3 Class II 開咬
- 症例 4 Class I 前歯部の強度な開咬
- 症例 5 Class III 開咬

- 2 「Class I 叢生」を治す
 - "en bloc" movementによるディスクレパンシーの解消
 - ディスクレパンシー解消の具体例
 - 症例 1~3 Class I 叢生
 - 症例 4 Class I ドリコフェイス型タイプ叢生
 - 症例 5 Class I 小臼歯抜去を伴う叢生 (上下顎前突)
 - 症例 6 Class I 小臼歯抜去を伴う叢生
- 3 「下顎側方偏位」を治す
 - 症例 1 下顎左方偏位 (片側性 Class II)
 - 症例 2 下顎左方偏位成人症例
 - 症例 3 下顎左方偏位 (片側性 Class III)
- 4 「Class II」を治す (1)
 - Class IIは「上顎前突」ではないこと
 - Class II 治療における「咬合平面の変更」
 - Class II 治療の基本パターン
 - Class II 治療と顎顔面の垂直的要因
- 5 「Class II」を治す (2)
 - 症例の概要
 - 症例 1~3 Class II div. 1
- 6 「Class II」を治す (3) ドリコフェイス型タイプ
 - 症例の概要
 - 症例 1~2 ドリコ型 Class II div. 1
 - 症例 3 ドリコ型 Class II div. 1 成人症例
- 7 「Class II」を治す (4) ブレーキーフェイス型タイプ
 - 症例 1~4 ブレーキー型 Class II div. 2
- 8 「Class III」を治す
 - Class IIIの概要
 - 下顎歯列の "en bloc" movement による遠心移動
 - 咬合平面変更による顎位の改善
 - ブレーキー型 Class III
 - ドリコ型 Class III
 - 症例 1 ブレーキー型 Class III 反対咬合
 - 症例 2 側方偏位を伴う Class III 反対咬合
 - 症例 3 過成長型 Class III 反対咬合
- 9 部分矯正の可能性
 - 歯軸の改善
 - スペースオープニング
 - 歯体移動

PART.2 臨床編

- 1 「開咬」を治す
 - すべての開咬はドリコ型
 - Step1: 臼歯部のレベリング
 - Step2: "en bloc" movement
 - Step3: 機能的咬合の完成

「GUMMETALワイヤーによる歯の一括移動 —その概念と臨床—」 申込書

氏名	
医院名 (大学名)	電話 ()
お届け先	
歯科商店名	